

意外とエコなブルキナファソ

在ブルキナファソ日本国大使館

昨今、海の生物の体内からプラスチックごみが検出されたり、エコバックが普及したり、一部ファストフード業界におけるプラスチックストローが撤廃されるなど、これまで便利に使っていたプラスチック製品の是非が問われています。日本でもペットボトルのリサイクル率は80%を超えているとはいえ、海や川のペットボトルのごみは増え続けていますが、ブルキナファソでは少し事情が異なります。

蛇口から出る水は水道管が古いためか、3分以上出し続けても少し色のついた水が出るのが普通であるため、飲み水はペットボトルのミネラルウォーターを購入します。そして20年前は清涼飲料水も空き瓶と交換でジュースを買っていたアフリカでも近年は便利なペットボトル入りのジュースが普及しています。平均気温も高いため、ブルキナファソにおける水や飲み物の空きペットボトルの排出量は膨大になっています。

しかしブルキナファソではペットボトルがごみとなって困ることはありません。なぜならごみ収集業者や近所のどなたかがペットボトルを回収し、市場で現金と交換しているからです。買い上げられたペットボトルはきれいに洗浄され、市場で現地産のジュースなどを売る際にリサイクル活用されています。ミネラルウォーターは1本70円前後ですが、聞くところによると空きペットボトルは1本5円。そのため、ブルキナファソではペットボトルのごみが落ちているということはありません。

ペットボトルだけでなく、空き瓶もリサイクルされています。家屋の塀の上には、防犯のため、鋭く割られた瓶が埋め込まれている風景もよく目にしますし、有名な洋酒瓶の中に詰まった国産ピーナッツはユニークなお土産品として評判も高いです。また、某有名ビールメーカーの名前が刻印された空き瓶を再利用し、国内大手の国産ジュースが販売されています。

ペットボトルや空き瓶も捨てずに再利用しているこの国は、資源を大事にするエコな国と言えるのではないのでしょうか。



空き瓶を利用して販売されているピーナツ（了）